

2025 年度

大学院 国際学研究科
1 期 入学試験問題
「小論文」

2024 年 10 月 5 日(土)

受験番号	氏名

次の3つの分野の中から一つを選び、各設問に答えなさい。

小論文 選択問題（市民社会領域）

課題文を読み、設問 1 と設問 2 に解答しなさい。

<課題文>

しばしば「教育以外に天然資源がない」と言われ、またコペンハーゲンを除いて大きな都市もなく、また他の欧米諸国に比して急速な産業化の条件を欠いた ^(a) デンマークでは、近代化は一般民衆の教養水準や社会関係資本に、つまり人力、結合力に依拠せざるをえなかった。こうした条件での近代化には「下から」の団結の要素が重要になることは予想できる。じじつ、人口の大部分を占めた農民の解放の意義は決定的であり、そこに小農経営を中心とする農業地域のネットワークが生まれる。それは伝統的なルター派国教会の教区共同体と平行しながら、酪農協同組合、農民銀行、フォルケリ・ホイスコーレ（国民高等学校）などの設立とネットワーク化を通じて農業の近代化を推進するが、他面ではそこに宗教的祭祀から出産や子育て、高齢者のケア、葬儀、文化、金融、労働の相互扶助の共同が行われ、地方自治体が租税を投入してそれらを支援することにもなった。

そこで重要な点はその原動力が中央政府と地方政府としての「お上」ではなく、「フォルケリヘズ（国民的一体性）」「民衆平等性」といったスローガンによって農民自身が「下から」力強い共同関係を創出したことである。故国の風土や自然に手を加えることで固有の地域文化を育て、さらにそれを拠点として政治的民主化の波を創出していったのである。ルター派プロテスタンティズムの平等思想はそうした共同を後押しできたし、その隣人愛の観念は近代的な社会連帯へと昇華することで、福祉国家の精神的背景となった。要はデンマークにおいて、自由、平等、友愛といった近代的理念が民衆的形態で受容・変形され、さらに公共性が「下から」、経済、生活、文化領域における相互扶助を仲立ちとして立ち上げられたのであり、こうした「公共性」をここでは「人びとの手による自主統治（ガバナンス）」と呼ぶことにしよう。

こうした「下から」湧き上がる「公共性」の水平的要素は通常の公共性論議では都市市民のなかから、経済利害から独立して生まれるとされている。ドイツの哲学者、J・ハーバマスが問題としたような、サロンやコーヒー・ハウスなどの議論の空間のなかから成長する「文芸的公共性」「批判的市民的公共性」はその典型であろう。たしかに、デンマーク近代にその要素が皆無だったという

わけではない。18 世紀末から 19 世紀の政治的自由主義化にあたって自由主義的な都市市民たちの貢献には顕著なものがあつた。だが、彼らは 19 世紀後半の対独戦争敗北後の政治的挫折によって主導的な地位を維持できなかった。このことから、通常の「下から」の公共性は建前において生活や経済から独立する市民によるのだが、デンマークにおいてそれは民衆の経済活動や生活の相互扶助と密接に結びつきながら成長した。その意味で、それは古代ギリシアのような「純市民」の伝統にも、いわゆる「ブルジョワ市民」の伝統にも連なるものではなく、むしろより土俗的なゲルマン共同体の伝統と密接に関係しながら成長したとすることができる。おそらくこのことが、デンマークのまちの性格を理解する上で重要であり、この点から逆に、近代市民社会からブルジョワ国家の経済開発主義への「公」の転換、行動的市民の受動的大衆化といった現象は、比較的小規模なものにとどまった。つまり、公共性の中心的担い手は農民から労働者へ、そして福祉国家によって支援された現代の共同市民へと変化を遂げたが、それぞれの時代に、それぞれの仕方で生活の相互扶助と民主主義の実態として働いてきたのである。

つまり、20 世紀に発達した普遍的（ユニバーサル）な福祉国家は経済と福祉とを密接に結合して固有の社会的生産力を構築するとともに、社会的資産の平等な再配分を通じて使用者と被雇用者、労働者と農民、都市と地方の在住者の生活・文化格差を埋め、「デンマーク」というナショナルな領域での一体性を醸成してきた。だが、そうした一体性はつねに「下から」のつながりによって積極的に仲立ちされてきたことを再確認しておきたい。それはかつては「民衆的・国民的一体性（フォルケリヘズ）」と呼ばれ、今日では「共同市民性」と言われる。いずれにしても法制度という「上から」の要素と ^(b) 政治参加という「下から」の要素が対抗しながら独自に結びついて生活公共性がかたちづくられている。しばしば中間層の「ユートピア」とも「デンマークの奇跡」とも言われる、この公共性は行政の「公」でもないし、純粹に自律した市民のそれでもない。いわばこれら両者の合作による「人びとの手による人びとのための共治（コ・ガバナンス）」としての「公」なのである。

（小池・西, 2007, 『福祉国家デンマークのまちづくり』 かもがわ出版）

設問 1

下線（a）の記述について、とくにデンマークにおける一般民衆の「人力、結合力」がいつそう明確になるよう、課題文を 300～400 字で要約しなさい。

設問 2

下線（b）の記述部分について、現代社会では公共性の成立のため「政治参加」がどのように重要だと考えられるか。デンマーク以外の国の事例でもかまわないので、任意に事例をあげ、あなたの見解を 600～800 字で説明しなさい。

小論文 選択問題（国際協力領域）

○以下の課題文は「気候危機と資本主義」について書かれた書物の中の一節である。文章を読み、つづく 2 つの設問に答えなさい。

<課題文>

温暖化対策として、あなたは、何かしているだろうか。レジ袋削減のために、エコバッグを買った？ ペットボトル入り飲料を買わないようにマイボトルを持ち歩いている？ 車をハイブリッドカーにした？

はっきり言おう。その善意だけなら無意味に終わる。それどころか、その善意は有害でさえある。

なぜだろうか。温暖化対策をしていると思いこむことで、真に必要とされているもっと大胆なアクションを起こさなくなってしまうからだ。良心の呵責^{かしやく}から逃れ、現実の危機から目を背けることを許す「免罪符」として機能する消費行動は、資本の側が環境配慮を装って私たちに欺くグリーン・ウォッシュにいとも簡単に取り込まれてしまう。

では、国連が掲げ、各国政府も大企業も推進する「SDGs（持続可能な開発目標）」なら地球全体の環境を変えていくことができるだろうか。いやそれもやはりうまくいかない。政府や企業が SDGs の行動指針をいくつかなぞったところで、気候変動は止められないのだ。SDGs はアリバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない。

かつて、マルクスは、資本主義のつらい現実が引き起こす苦悩を和らげる「宗教」を「大衆のアヘン」だと批判した。⁽¹⁾ SDGs はまさに現代版「大衆のアヘン」である。

アヘンに逃げ込むことなく、直視しなくてはならない現実、私たち人間が地球のあり方を取り返しのつかないほど大きく変えてしまっているということだ。

人類の経済活動が地球に与えた影響があまりに大きいため、ノーベル化学賞受賞者のパウ・クルツェンは、地質学的に見て、地球は新たな年代に突入したと言い、それを「^{ひとしんせい}人新世」（Anthropocene）と名付けた。人間たちの活動の痕跡が、地球の表面を覆いつくした年代という意味である。

実際、ビル、工場、道路、農地、ダムなどが地表を埋め尽くし、海洋にはマイクロ・プラスチックが大量に浮遊している。人工物が地球を大きく変えているのだ。とりわけその中でも、人類の活動によって飛躍的に増大しているのが、大気中の二酸化炭素である。

ご存じのとおり、二酸化炭素は温室効果ガスのひとつだ。温室効果ガスが地表から放射された熱を吸収し、大気は暖まっていく。その温室効果のおかげで、地球は、人間が暮らしている気温に保たれてきた。

ところが、産業革命以降、人間は石油などの化石燃料を大量に使用し、膨大な二酸化炭素を排出するようになった。産業革命以前には 280ppm であった大気中の二酸化炭素濃度が、ついに 2016 年には、南極でも 400ppm を超えてしまった。これは 400 万年ぶりのことだという。

そして、その値は、今この瞬間も増え続けている。

400 万年前の「鮮新世」の平均気温は現在よりも 2～3℃ 高く、南極やグリーンランドの氷床は融解しており、海面は最低でも 6m 高かったという。なかには 10～20m ほど高かったとする研究もある。

「人新世」の気候変動も、当時と同じような状況に地球環境を近づけていくのだろうか。人類が築いてきた文明が、存続の危機に直面しているのは間違いない。

近代化による経済成長は、豊かな生活を約束していたはずだった。ところが、「人新世」の環境危機によって明らかになりつつあるのは、皮肉なことに、⁽²⁾ まさに経済成長が、人類の繁栄の基盤を切り崩しつつあるという事実である。

気候変動が急速に進んでも、超富裕層は、これまで通りの^{ほうちつ}放埒な生活が続けることができるかもしれない。しかし、私たち庶民のほとんどは、これまでの暮らしを喪い、どう生き延びるのかを必死で探ることになる。

そのような事態を避けるためには、政治家や専門家だけに危機対応を任せていてはならない。「人新世」では、超富裕層が優遇されるだけだろう。だからより良い未来を選択するために、市民一人ひとりが当事者として立ち上がり、声を上げ、行動しなければならないのだ。そうは言っても、ただ闇雲に声を上げるだけでは貴重な時間を浪費してしまう。正しい方向を目指すのが肝腎となる。

(斉藤幸平, 2020 年, 『人新世の「資本論」』 集英社, pp.3～6)

【設問 1】

課題文の (2) の下線部はどういう意味か。具体例を示しつつ、その内容について、300～400 字程度で説明しなさい。

【設問 2】

課題文の (1) の下線部で、著者は SDGs が「大衆のアヘン」とであると説く。これに対し、SDGs が温暖化問題の実際の解決に有効であるかどうか、あなたの見解を 600～800 字程度で述べなさい。

小論文 選択問題（観光領域）

以下の課題文を読み、あとの2つの設問に答えなさい。

スケートボードは、遊びから始まりから始まり¹、ストリートカルチャーというスタイリッシュな文化的背景もあって、若者を惹きつけ、市場を拡大し続けている。市場を拡大し、経済的価値が認識されるようになったスケートボードだが、近年、都市再生や活性化のために、スケートパーク再開発などが実施されるようになっていく。

スケートパークが建設されると、周辺にカフェやギャラリー、バーなどが建ち並び、人々を惹きつけ、都市を再生させる。そのため、アメリカの都市計画の担当者の一部は、路上生活者が集まっているようなエリアを一掃し、地価を上げる再開発の手段の1つとしてスケートパークを認識しているのである（Skate News Wire 2020）。

ハウエルは、モール化する都市空間に対してスケートボードが「ジェントリフィケーション²の一部（Skate News Wire 2020）」に関与することで加担をし、スケートボード（パーク）が経済的手段と見なされている（Skate News Wire 2020）ことに警鐘を鳴らすのである。

スケートパーク自体が経済的手段になり、近隣住民やスケーターがもっていた場所に住めなくなったり、スケーターが資本や政治の介入により都合よく都市空間で排除されたりするようであれば、それは問題になる。この点は、スケートパークに限らず、財政学者や地域経済学者、社会学者からすでに指摘されている。アーティストやボヘミアンなども、意図的でないにしろ、ジェントリフィケーションに関与している事実も認められる（Zukin 2010；2014）。そして、その要因の1つはアメリカの財政構造にある。

ニューヨーク市やサンフランシスコ市などの大都市の税収の中で高い割合を占めるのが不動産税であることから、自治体は、エリアの開発はもとより、再開発事業を通じて、不動産税や事業税からの増収が見込めることになる（大島ほか 1989；清水 2004）。そのため、自治体の財政再建や安定を含めた都市再生の手段となりえる、あるいはそう認識されているのである。

つまり、スケートパークによるジェントリフィケーションの現象やその弊害は、地価高騰の顕著なアメリカに顕著に現れる傾向がある。一方で、日本では、スケーターが単にあるエリアから排除されることがあっても、スケートパークの設置が要因で地価が高騰したり、ほかのエリアにおいても住めなくなったりすることは今までほとんど経験していない。アメリカ国内においても、どの程度の割合で、スケートパークの近隣地区の地価が高騰しているのかについては触れられていないため、すべてにおいて経済的手段になっているとは明確には判断しきれない。

むしろ、住民生活に支障がなければ、忘れ去られ荒廃したエリアに店舗が再び立地することは、コミュニティとして再生あるいは再構築する過程としてとらえられる。実際に、スケートパークや都市やコミュニティの再生において有効に機能している事実がある。た

例えば、日本では、スケートパークという合法的に滑れる場所を提供することで、スケートボードに関連する問題の解消や緩和に貢献しているケースがいくつも存在している。

欧州でも、社会的効果創出を目的として、コミュニティや貧困地区の若者の拠点づくりのためのスケートパークの再開発などがすでに実施されている。オーストラリアのクイーンズランド州も、スケートパークを「コミュニティのハブ（中心）」として、若者だけではなく、高齢者も交流できるコミュニティライフの場所として位置付けている（Borden 2019；Dumas and Laforest 2009; Bradly 2010）。また、中心市街地にスケートパークを設置することによって、犯罪率などが低下したという報告もある（Borden 2019; Taylor and Marais 2011; Bradly 2010）。世界の諸都市では、スケートパークが「若者を惹きつける健全で活動的なライフスタイル」を提供する好ましい場所であるという認識が広がり始めているのである（前掲書）。

したがって、スケートパークは、必ずしもジェントリフィケーションを発生させるような経済的手段になり得ているわけではなく、都市空間の衰退または荒廃した地域や倉庫街のコミュニティを再生し、活気づけたり、スケートボードに関する問題の解消に役立ったりする潜在的可能性を持っているのである。

本質的な課題は、上記の通り、資本の理論や政治の介入によって、スケートボードに介在する創造性や表現のための自由が制限されたり、そこから生まれるスケートボードの文化が脅かされたりすることである。なぜなら、自由や創造性から生み出されるスケートボードの文化的構成要素がスケートボード本来の姿を保持するものであると同時に、本来あるいは本質的なスケートボードのコアな文化が継承され、新たな文化が生まれ、蓄積されているためである。そのことが、スケートボード自体の魅力を高めて、若者をひきつけ、都市に活気をもたらし都市文化を構成する要素の1つとなる。

都市文化の1つであるからこそ、観光とも関連づく場所になるところもある。この場合の観光とは、大会イベント参加での消費的な観光だけではなく、滑りに訪れる体験型の観光である。野球場やバスケットボールなど、ほかのスポーツ施設であれば、どこも同様な施設になるが、都市文化の1つとなるようなスケートパークはそこに行かなければ体験できないものである。

スケートボードやスケートパークが持つ文化的価値が、経済的価値を高めたり、生み出したりすることがある。一方で、文化的価値はあるが経済的価値のないものもある。この点からも、スケートボード文化の真正性となる文化基盤を保持・振興することは、経済と文化とのバランスを保つことにもつながり、そのあり方を明らかにすることが都市空間や都市再生には必要とされているのである。

注1 移動手段として使用していた説もある。

注2 「ジェントリフィケーション」とは、「都市において、比較的低所得者層の居住地域が再開発や文化的活動などによって活性化し、その結果、地価が高騰すること」（「毎日新聞」2015年3月25日、奈良版、寮美千子「ならまち暮らし：芸術という罫」）とさ

れる。

清水麻帆（2023）『スケートボード資本論—アーバンスポーツは年を再生させるか』，水曜社，pp.14-21 を一部改変．

設問 1

課題文を 400 字程度で要約しなさい。

設問 2

都市空間や都市再生における「経済と文化のバランス」に対するあなたの考えを 600 字程度で述べなさい。

以上で問題は終わりです。

